
B e s t c l i p s o f t h e G a k u t o O n o

ハシリケンシロウ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Best clips of the Gakuto Ono

【NZコード】

NZ9592G

【作者名】

ハシリケンシロウ

【あらすじ】

「カウントダウンTVを」ご覧の皆さんこんばんは、小野学人（拙作品『粉雪』に登場）です。この度私めの音楽活動10周年を記念いたしまして、ビデオクリップ集のベスト盤を発売することになりました。勿論ブルーレイとDVDですのでご安心を。全30曲入り、全映像歌詞テロップ付きであります。それでは」覧くださいー!どうぞ!」

1st～3rd（前書き）

この作品では、学人がこれまで発表してきたシングルCDの歌詞を
ご紹介しようと思います。

1st～3rd

1 : Promis

見上げてくれこの大空を
僕はいつもそこにいるから

君を探していた

僕だと気付いてもらえないことは解つてゐるけど

ずっと探していた

どうしてもいつか果たしたい約束があつたから

僕が一方的に破つた約束

知らない誰かに奪われたあの約束

『君を幸せにしてみせるよ』

見上げてくれこの大空を

くじけそうになつたとき

僕はずつとこの空にいる
ずっと君のそばにいるから

高い空の上

旋回しながら君を探す僕の真下を
君が通り抜ける

知らない男の傍らに寄り添つて

僕はもう生まれ変わつてゐる

今の僕は人じやなくともう……鳥だから

だから心から『おめでとう』

見上げてくれこの大空を
それでも約束は果たすから

君が好きだから

ずっと好きでいたいから

だから

見上げてくれこの大空を
くじけそうになつたとき

僕はずつとこの空にいる
全力をかけて助けてみせるから

君を

ああまだ

2・サイレン

壁一枚の向こう側

また聞こえてくる
白と黒の甲高い悲鳴が

被る！

俺の頭の中で！

被る！

あいつの断末魔の声と！

早く見付けてくれ！

気がふれてしまいそうだ

早く見付けてくれよ！

ああだめだ

また通り過ぎていく……

逃げないと

バリアは薄い壁一枚

頭の中で揺れ動く

矛盾する二つの衝動

逃げろ！

逃げないと全てが終わる！

見付けろ！

壊れる！ 僕が壊れる！ 全部壊れる！

誰か教えてくれ！

俺はどうすればいいのか

誰か教えてくれよ！

ああだめだ

味方が誰もいない……

壊れていく……俺が……

崩れしていく……身体が……

折れしていく……心が……

早く見付けてくれ！

またサイレンが通り抜ける

早く見付けてくれよ！

ああだめだ

もうなにも解らない……

壊れしていく……俺が
壊れしていく……
壊れ……

3：粉雪

蘇つてくれ

この白いスクリーンの中に
もう一度君に会いたいから

蘇つてくれ

この白いスクリーンの中に
たつた一言

伝えたいことがあるから

君と出会ったあのとき
粉雪が降り注いでいた
僕等の出会いを祝うかのように

君と別れた夜

静かに粉雪が降り注いでいた
僕等の別れを嘆くかのように

特別な日には
いつもかかっていた
君との思い出を映す
白いスクリーン

蘇つてくれ

この白いスクリーンの中に
もう一度君に会いたいから

蘇つてくれ

この白いスクリーンの中に
どうしても君に
言いたいことがあるから

君と別れた夜

粉雪が降り注いでいた

君の形の赤い穴をもみ消しているかのように

どうしても振り払うことのできない

君との思い出を押し付ける

白いスクリーン

蘇つてくれ

この白いスクリーンの中に
もう一度君に会いたいから

蘇つてくれ

この白いスクリーンの中に
どうしても話を聞いてほしいから

蘇つてくれ

この白いスクリーンの中に
もう一度君に会いたいから

蘇つてくれ

この白いスクリーンの中に
幻でもいい
もう一度

道を行き交う

この人の群れの中に
君の姿が見えた気がした
人の群れの中佇む君に
力一杯強く叫んだ

「ありがとう サよなら」

と

時はまた動き出す
新しい春に向かって
……

4 ht ~ 6 ht

4 : Red Zone

今日もまた来た
お前の催促

出会いって3年
ずっと足代わり

したことといえば
酔っ払ってやつたキスだけ

おまえのために買った車

走行距離はもう

10000000キロ

打ち破つてやる

この関係

今の一一人のその先に突き抜けるための

Red Zone

踏み込むアクセル
加速する想い

疾る衝動

跳ね上がるスピード

勇気搾つて

もつ告つちまおひせー

おまえのために買った車
飛ばして向かうおまえの心

打ち破つてやる

このバリア

焦らし続けるその態度

跳ね飛ばすための

Red Zone

おまえのために買った車

ぶち込んでやるせそのハートに

打ち破つてやる

壁全部

閉ざされた心のドアを

こじ開けるための

Red Zone

5・拝啓、桜の花薫る季節となりました

拝啓

桜の花薫る季節となりました

貴方はどうお過しですか？

僕は

桜の花に囲まれて

貴方を思い出しています

薄紅色の花びらが舞うあの公園に
貴方に連れて行つてもらつてから

僕もすっかり桜の花が好きになりました

貴方は覚えていらっしゃるか？

あの麗らかに差し込む晩春の日差しの中

まるでライスシャワーのように

優しく降り注ぐ花びらのシャワーの中を寄り添つて歩いたあの日を

僕は忘れていません

僕にとって貴方がくれた最高の宝物だから

ところで

話はがらっと変わりますが
新しい恋人がきました

僕は

彼女にもあの綺麗な
桜並木を見せたいと思います

薄紅色の花びらが舞うあの景色は
とても綺麗で幻想的で

彼女もきっと気に入ってくれることでしょう

僕は間違っていますか？

これから別な人の隣で歩き出さうとする中

その相手を貴方の色に染め変えようとする僕は
貴方には忘れられますか？

あの日を

僕はできそうにありません

貴方がくれたあの日々は
どうしたって宝物だから

苦しいです

正直

辛いんです

今の僕の胸の内は

彼女は貴方ではないのに

僕の力ノジョももつ
貴方ではないのに！

貴方は覚えていますか？
覚えていたなら忘れてください
僕らが過ごしたあの日々は

僕も閉じ込めようと思います

僕の心の奥にあるパンドラの箱に

その誓いとして今日僕は

この手紙を貴方の墓前に捧げる次第です

それでは

常世でますますご健勝のことお祈りしつ
この辺りで筆を置きます

敬具

6・紙がねえ！

突然やつてきた腹の急降下
あつという間に限界だ！

人目憚らず立ち上がり
専用施設に猛ダッシュ！

間に合つた
間に合つた

なんとか間に合つた！

用を足し終え

戻るテンション

最後の仕上げと右側見ると

！

か・み・が・ね・え・！

一時期の不運と割り切つて
他の個室を覗き込む

掃除用具入れの上の棚
確かそこにも置いてある

ある筈だ

ある筈だ

絶対ある筈だ！

短けえ脚伸ばし

もがきながら

必死にまわぐる棚の上

たけど

か・み・は・ね・え・！

男子トイレに紙はねえ
じゃあどうすると考えた

思い付く場所は只一つ
禁断の場所女子トイレ

見付けたぞ
見付けたぞ
見付けたぞ
ようやく見付けたぞ！

急いで巻き取り
拭き取つた後

感じてしまった
最悪な気配

誰か来る

誰か来る

ヤベえ誰か来る！

急転直下

急降下

天国から地獄へ

今開く
今開く

地獄への扉が……

「「やあおーーー！」」

7ht、8ht

7：決勝戦 → 勝利の女神とはとても皮肉なもので……」

「ピッチャー振りかぶつて
第6球を……
投げました！」

とらえたーーー！」

君は振り返った
その目線の先
すっ飛んでいくボール
まるで君の心を
切り裂いているかのようなスピードで
僕には解ってたよ
あれは君の渾身の
ウイニングショットだったよね
フェンスを越えるボール
マウンドで力尽きた君

ダイヤモンドを廻る僕を見て
ただただうなだれて涙を流している君

マウンドはもうグラウンド整備の後のように濡れていた

そんなに泣くことはないよ
君は精一杯戦つたんだから

君自身でも

今日の試合で一番のボールだつたんだろう？

大丈夫だよ

みんなちゃんと解つてるから

だからもう

立ち上がろつよ

もつすぐ試合が終わるんだから

サードを廻つた

ホームはもう目の前だ

黙々と走る君

意外なことに泣いていたね

まるで君が打たれたみたいに

僕には解らないよ

あれは僕の渾身の

ウイニングショットだつたのに

なんで君はそんな悲しそうな顔をしてるの？

ダイヤモンドを廻る君を見て
余計にやるせなくなつてきちゃつたよ

涙も拭かず

ついにサヨナラのホームを踏んだ

頼むから堂々としてくれよ

あれは僕の生涯最高のボール

僕自身でももう一度と投げる」とのできない球だったんだ
悔し過ぎるよ

打ち損ねで持つて行かれたなんて

だめだもつ

立ち上がれないよ

もうとつくに試合は終わったのに

もつと堂々としていいよ
あれは君の勝ちだったんだ

あんなだつたら普通に振つて

普通に打ち損ねて凡退するんだつた

悔し過ぎるよ

適当に振つたらまたま捉えたなんて……

どうしても
勝つた気がしないよ

確かに僕たちが試合に勝ったのに……

8 : L , A r c e n c i e l

ずっと探していた場所

七色に輝く場所

みづやく辿り着いた虹の麓なのに

なぜだろうつ

なにか無性に

虚しいんだ……

初めて君と

この景色を見に行ったとき

君は

心から楽しんでいたね

そこでの一時を

だから

勘違いしちゃったのかも知れない

君なら解つてくれる
君なら乗つてくれる

隣に君はいなきど

もうすぐ行けるかもしね

今まで探していた虹の麓まで

なぜだらつ

嬉しい筈なのに……

光の色が足りない気がする
六色の輝き

何か足りない虹の麓なんかに
何の意味がある?

無い

意味なんて

ある訳がないんだ……

君と行つた

七色に輝く場所は

僕より

君のほうが氣に入っていたよね
そこでの空気を

だから

一緒に探してくれると思い込んでた

だけど

「わたしもう付いて行けない」

君からの手痛い言葉

君はいなくなつたけど

もうすぐ行けることになつたよ

ずっと探し続けてきた虹の籠に

だけどまだ

色が足りないんだ……

光の色が絶対に足りない
六色の輝き

君の色が抜けた虹の籠なんかに
何の意味がある?

無い

意味なんて

ある訳がないんだ……

君がいなくなつたから

もう来れないかと思つてたよ

ずっと探していたこの虹の麓に

だけど

君の色が……

だから君にも来てもらいたい

七色の光を

君の色をこの初ライブに加えてほしい
だから送るよ

このチケットを……

今度は僕らで創りつ

いつか見た七色の輝きを

9：娘よ、今までありがとうございました

どうか

無理に俺をあまり構わないでほしい
たとえ立ち上がるこどが出来なくとも
まだまだ身体は元気なんだから

俺のことは気にせずに

好きなことに打ち込んでくれればいい

解つてるから

俺の介護で時間が潰れてたのは
俺にも解つてたから

だから

素直に言えなかつたんだ

とてもありがたいのに

陰で泣いてるおまえを知つてるから
だからどうしても言いそびれるんだ

ありがとう

不憫に思つ涙も
悔し涙も

陰で全部見てきたから
俺まで悲しくなつてくれるんだ
全部知つてるから

だから

もう泣かないでほしいんだ
俺のせいなんかで

おまえが進もうとしてる道は
選ばれた者しか進めない道だから

だから

俺に構うことなんかないよ
その分は練習に回せばいい

そして元気を取り戻してほしい
その時俺は初めて言えるんだ

「ありがとう」と

風呂はちょっと辛いから

入れてもらわなきゃ駄目だけど

それ以外は大丈夫だから

この場を借りてもう一度言つよ

今まで本当にありがとうございます

後はどうか

自分のために時間を割いてほしい

(学人は今事故により下半身不随になっています)

10：なぜ瓶はここにいる？

赤い海の中佇む君が

頭を抱え赤く粘ついた髪を揺らす

乱れ髪の隙間から飛び出した
ダイヤのような輝きが
赤い海の中に弾けて消える

赤い海を作り出した剣を片手に
笑つたような顔で泣いている君

俺も

今同じ顔をしているんだろうか

急にファイードバックする一人で笑いあつた日々
敵将を前に剣を抜けない俺

なぜ君はここにいる?
君だけは信じてたのに

なぜ俺の前に立つ?

そんな血塗れの剣をかざして……

赤い飛沫を撒き散らしながら
向かってくる君の涙の中には

為す術も無く佇んでいる
俺の姿が映り込んでいた

赤い海を踏み締める足で
大津波を巻き起こしながら

運命に弄ばれるがままの俺達に
君が決着を付けに来る

なぜ君は叫んでる?

君だけは助けたかったのに

なぜ俺を斬りに来る?

君だけは……

生き延びてほしいのに

なぜ……
なぜ……
なぜ……

なぜ君が斃れてる?
頭の付いてない体で……

なぜ俺が斃してる?
もつ全てどうでもいい

俺はただ

ずっと君と過ごして居たかつただけなのに……

それだけが望みだつたのに……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9592g/>

Best clips of the Gakuto Ono

2010年10月10日01時08分発行